

# 身边なものに興味を持ち分析していく力を

鈴木 千文 助教

Assistant Prof. Suzuki Chifumi

認知と情報処理

3年前期／専門部門（情報数理科目群）

## 毎日発している「音声」を、理論的に紐解く

—— 「認知と情報処理」は、どのような講義ですか？

講義では、主に音声や音を扱っています。音声、つまり「人が発した声」について、さまざまな角度から学びます。音声には個人的な特徴が含まれますが、この要因となっているものについて解説したり、発声された言葉や単語に対して、アクセントや構成する要素について分析したりします。音色の情報の基礎について触れるほか、「聞く」ことにもフォーカスし、音声や音を聞くときに耳がどのようなメカニズムで働くのかも学んでいきます。音声は話し声だけではなく、歌声も含まれます。話声と歌声にはどんな違いがあるのか？ 歌声特有の特徴は何か？など、学生の興味の対象を広げながら、講義を進めています。

—— 理論を学びつつ、実際に音を聞く機会もあるんですか？

はい。音楽データに対する処理についての講義では専門用語を使って説明しますが、理論だけでは分かりにくいので実際に処理した音楽データを聞いてもらいます。それ以外にも、音声を発声する際の発声器官の動きを映した映像を流すこともあります。聴覚的、視覚的に扱っているものがデータ化できる=明確になることを経験することで、より理解が深まるのではないか

かと考えています。

音声は誰もが日々発しているとても身近な存在ですが、じっくり学んだことはないと思います。**身边なものに興味を持つきっかけを知ること、些細なことにも「なぜ？」と考えてみることなど、学びのきっかけを見つける力もつけて欲しいですね。**

## さまざまな学びと出会える都市情報学部

—— 都市情報学部で、どんなことを学んで欲しいですか？

都市情報学部は文理融合のとても珍しい学部で、さまざまな分野を広く、それも専門性の高い先生方から学ぶことができます。**いろいろな分野を少しずつ学べるというのは、自分自身の興味を探るにはもっとも楽しい方法だと私は思います。深く追究していく少し前の段階で、わかりやすく一番楽しいところを、いろいろ“つまみ食い”するような感じで学べる、とても貴重な機会です。苦手意識を持っていた分野も含めて、いろいろな講義を受けてみると、面白いと思えるポイントを見つけるきっかけになると思います。自分自身が「面白そう！」「学びたい」と思える分野が見つかると、学ぶことがもっと楽しくなるはずです。都市情報学部で、自分の未来につながるような学問との出会いをして欲しいですね。**

学生におすすめの一冊

音響学入門

日本音響学会編（コロナ社）



難しい数式をほとんど用いず、わかりやすい図と文で音響学の基礎的なことが学べるので、音響学の初学者には特におすすめ。理論を学ぶだけでなく、付録のDVDで実際に音で聞いて確認できるので、とても理解しやすいと思います。講義でもこのDVDを活用しています。音響学を系統的に学べる一冊です。

## 学生の声



大山 寧々さん（3年生）

音声情報処理に興味があり、受講しました。授業では実際の音声や映像に加え、理解しやすいスライドが用意されていて、どのように情報処理が行われるのかを図表を理解しながら学ぶことができます。数学を得意としない私でも、認知と情報処理における基礎知識を身に付けることができたと思います。